

平成28年度
「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン
助成活動報告



平成29年1月20日
NPO法人北海道遺産協議会

平成28年度「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン 助成先一覧(計4件)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	天塩川	天塩町	天塩野菜づくりネットワーク (町民農園友の会)	天塩川河口の環境保全活動(ごみ拾いと植樹)と 天塩川の砂地で生産した長いも掘り親子体験活動	300,000
2	石狩川	石狩市	一般社団法人石狩観光協会	はまなすの丘公園整備事業	300,000
3	昭和新山 国際雪合戦大会	壮瞥町	昭和新山国際雪合戦実行委員会	1008 453(とおや よごさん)キャンペーンwith 昭和新山国際雪合戦会場周辺クリーン活動	250,000
4	天塩川	天塩川流域	ダウン・ザ・テッシェーオーペツ実行委員会 (略称:ダウン・ザ・テッシ実行委員会)	北海道遺産 天塩川カヌーツーリング大会 「ダウン・ザ・テッシェーオーペツ2016」	250,000

1. 天塩川河口の環境保全活動(ごみ拾いと植樹)と 天塩川の砂地で生産した長いも掘り親子体験活動

- 実施主体：天塩野菜づくりネットワーク（町民農園友の会）（天塩町）
- 実施団体URL：<https://teshio.jimdo.com/>（町民農園友の会HP）
- 助成額：300,000円

一活動内容一

●チラシ折込や公共施設等でのポスター掲示などで本活動の周知を行い、31名の地域住民の皆さんの参加を頂き開催しました。

●活動当日の10月29日（土）は、風が強く寒い一日でしたが、テキストを使った学習会では北海道遺産の天塩川の認知度を高め、ごみ拾いや植樹会では、環境への大切さの理解を深め、長いも掘りでは掘った長いものに歓声が上がるなど、最後は、おいお茶を手に掲げて記念写真を撮って、楽しく体験活動を終了しました。



遺産の名称：
「天塩川」
（天塩町など流域市町村）



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」(やな)の意味)が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることが出来る日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

2. はまなすの丘公園整備事業

■ 実施主体：一般社団法人石狩観光協会（石狩市）

■ 実施団体URL：<http://www.ishikari-kankou.net/index.html>
（石狩観光協会HP）

■ 助成額：300,000円

－活動内容－

●はまなすの丘公園は、日本海と石狩川の交界りに形成された1.5kmに及ぶ砂丘に広がる公園である。約46ヘクタールの公園には、市の花であるハマナスをはじめ、ハマボウフウやイソスミレなど180種の豊かな海浜植物が自生しており、年間約3万人の観光客が訪れている。

●しかし、公園入口にある現在の案内標識は、劣化が激しく、長年の形状変化に伴う現地との不一致が生じている。また、多くの観光客が訪れるにも関わらず、公園を案内するパンフレットも現在は無い。そのため、これらを一体的に整備・作成することで、来園者の利便性向上と、自然環境保全の啓発に寄与する。

●また、案内標識のデザイン及びパンフレット製作にあたっては、石狩海岸の保全と啓発を目的に活動している市民団体「いしかり海辺ファンクラブ」の会員と協働で行うことで、その過程を通じて市民自らが、自然環境保全の意識を高めるとともに、地域理解を深めることができた。



遺産の名称：

「石狩川」

（石狩市など流域市町村）



大雪山系を源とし、上川・空知・石狩の大平野を形成して日本海に注ぐ大河川。北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながらも、交通・物資輸送の道として大きな役割を担い、また、鮭漁など北海道の歴史と文化が刻み込まれている母なる川。石狩川の地引き網漁は江戸時代に始まり、昭和期には遠方からも多くの見物客が訪れたほどである。

3. 1008 453(とおやよごさん)キャンペーン with昭和新山国際雪合戦会場周辺グリーン活動

- 実施主体：昭和新山国際雪合戦実行委員会（壮瞥町）
- 実施団体URL：<http://www.yukigassen.jp/>
（昭和新山国際雪合戦実行委員会公式ウェブサイト）
- 助成額：250,000円

一活動内容一

- 昭和新山国際雪合戦終了後、夏場に観光客が捨てたごみや雪に埋もれていたごみが散乱しており、自治会や関係者の協力で5コースに分かれて清掃活動を行った。関係者、伊藤園ボランティアスタッフを含め、104名が参加した。
- ゴミの総重量は5トン程度回収された。トラックのタイヤや看板など産業ごみもあり、悪臭を放つものが東湖畔周辺に散見された。
- 雪合戦実行委員会は主として伊達インターチェンジから昭和新山までの路線等の道路沿線を中心に清掃を行った。



遺産の名称：
「昭和新山国際雪合戦
大会」（壮瞥町）



子どもの遊びを、大人が真剣に競う冬のスポーツとして確立したことは、雪国・北海道にふさわしい新しい文化といえる。ルール・用具の開発から、資金集め、企画運営まで地域住民が主体となって進められている。1989年に始まった大会の歴史の中で、まちの若者たちの情熱とアイデアは海を渡り、今では北欧など海外でも「YUKIGASSEN」が開かれている。

4. 北海道遺産 天塩川カヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシー・オー・ペッ

- 実施主体：ダウン・ザ・テッシー・オー・ペッ実行委員会
(略称：ダウン・ザ・テッシ実行委員会) (天塩町)
- 実施団体URL： <https://mint.hokkai.net/~hccc/dt01>
(ダウン・ザ・テッシー・オー・ペッHP)
- 助成額：250,000円

一活動内容一

- カヌーツーリング大会の開催を通じて、北海道遺産「天塩川」の大自然と触れ合い、河川景観や環境保全に対する関心を高める。
- カヌーツーリング大会前、大会期間中に清掃活動を展開し、参加者全員がツーリング中にゴミ拾い等のクリーンリバーに参加した。
 - ・事前清掃活動 6月11日、7月3日、7月16日
 - ・大会期間中 7月17日～18日



遺産の名称：
「天塩川」
(天塩町など流域市町村)



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ(アイヌ語で「梁」(やな)の意味)が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができる日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。